

**地方創生推進交付金を活用した
中部山岳国立公園活性化の取り組みについて
(平成31年度 第2回高山市環境審議会資料)**

1. 経緯

高山市内（岐阜県内）の中部山岳国立公園及びその周辺地域は、槍・穂高連峰、乗鞍岳といった3,000m級の山岳や湧泉量国内第3位を誇る奥飛騨温泉郷など、豊かな自然環境に恵まれており、国内最高所の自動車道路である乗鞍スカイラインや新穂高ロープウェイなどの観光施設も立地する山岳観光地である。

しかし、同公園の利用者数（県内）は、平成22年の約128万人から平成27年の約96万人へと大きく減少し、その山麓にある奥飛騨温泉郷においても平成27年は約56万人と平成22年度に比べて約15%落ち込むなど、同公園及び周辺地域の活力の低下が懸念されている。

こうした状況を受け、岐阜県では高山市や地元関係団体などと検討を重ね、平成29年7月に「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想」を、また、平成30年2月には「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本計画」を策定し、その具体的な取り組みを推進する組織として、平成31年3月に「岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会」を設立し、中部山岳国立公園及び周辺地域の活性化への取り組みを強化した。

高山市においても、上記協議会へ参画するほか、上記エリアにおける持続可能な地域づくりの実現を目指し、国内でも有数の地形地質資産や景観等を活用したジオパークの取組みを進めており、平成28年12月に、民間主導の組織である「飛騨山脈ジオパーク推進協議会」を設立し、地元商工観光関係や町内会などの団体と官民連携での取組みを進めている。

岐阜県及び高山市は、それぞれが進めている取組みの連携を図りながら、相互の効果を高めるため、岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会での検討や取り組みを通じて、地域一丸となって訪問客が長期的に滞在できる地域づくりに向けた取組みを進めることにより、環境と観光の調和が図られた、持続可能な山岳観光地の創出を目指すこととしている。

2. 地方創生推進交付金対象事業の概要

- ①事業名称 中部山岳国立公園活性化事業
- ②事業の内容

地域資源を最大限に活用しながら、観光客の長期滞在が可能な地域の創出を図り、中長期的に、自然環境を守りながら、多様な自然の魅力を活用した持続的な観光地を創出することを目指して、次のとおり活性化に向けた事業を展開する。

③主な事業

- ・ガイド人材の育成・ガイドプログラムの整備
- ・飛騨山脈ジオパーク構想の推進
- ・アプリケーション開発
- ・環境教育の推進
- ・ONSEN・ガストロノミーの推進
- ・公園の魅力発信と周遊滞在の促進
- ・総合的な利用拠点の整備
- ・大都市圏等からの誘客促進

3. 事業実施期間

2018年4月1日から2021年3月31日までの3年間

4. 数値目標

| | 事業開始前 (現時点) | 2018年度 増加分 1年目 | 2019年度 増加分 2年目 | 2020年度 増加分 3年目 | KPI 増加分 の累計 |
|----------------------------------|----------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------|
| 中部山岳国立公園及びその周辺 地域の利用人数(万人) | 147.4 | 1.62 | 1.62 | 1.62 | 4.86 |
| 観光消費の経済波及効果(高山 市)(億円) | 1,994 | 74 | 74 | 74 | 222 |
| 中部山岳国立公園における自然 体験プログラム受講者数(人) | 7,976 | 0 | 1,000 | 2,000 | 3,000 |

5. 評価及び検証の方法

市内の有識者や各種団体の代表者、推薦者等で構成する「高山市環境審議会」において事業の効果検証を行う。

6. 平成31年度(2019年度)採択額

7,955,000円(高山市分のみ)

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

中部山岳国立公園活性化事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

岐阜県及び高山市

3 地域再生計画の区域

岐阜県の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地方創生の実現における構造的な課題

本県は、これまで、乗鞍岳の自然環境の保護を図りながら、来訪者に対して解説業務を行う乗鞍環境パトロール員を配置したり、来訪者の快適な利用に資するため、トイレや自然探勝路といった自然公園施設の設置管理を行い、自然環境の保護と利用を図ってきた。また、雄大な山岳景観や豊富な温泉を活かした誘客プロモーションを実施してきたところである。

しかし、中部山岳国立公園周辺には、ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の一つ、高山祭や、古い町並み、日本遺産「飛騨の匠の技・こころ」など、日本の文化・伝統を感じることができ、年間450万人（H28）の観光客で賑わう飛騨高山や、年間180万人（H28）が訪れる「白川郷合掌造り集落」といった、国内外の旅行者を魅了する国内でも屈指の観光地があるものの、近接性が知られていないうえ、地域においても周遊につながる取組みがなされていない。

また、中部山岳国立公園及びその周辺地域に滞在・宿泊することでしか味わえない、このエリアならではの楽しみ方の提案やこれを提供するための仕掛けづくりが不足している。

こうしたことから、利用客数が大幅に低下している現状を踏まえて、有識者や地元関係者と意見交換しながら検討を進めたところ、次の課題が明らかとなっており、対応が必要な状況にある。

①公園及び周辺地域の情報発信が連携不足、旅行者に必要な情報の質・量の不足、国立公園ビジターセンターの内容が古い。

②地域の魅力を伝えるガイドやエコツアー等が不足し、観光客に対して、自然・温泉等の魅力が十分に伝えられていない。

- ③多様な植生や貴重な動植物など環境教育の場として最適であるが、十分に活用していない。
- ④雨天時や冬季における同公園の楽しみ方が十分に開発されていない。
- ⑤自然公園施設の老朽化が進み、訪日外国人を含めた多様な訪問者を受け入れる体制が十分でない。

4-2 地方創生として目指す将来像

【概要】

本県の中部山岳国立公園及びその周辺地域（乗鞍岳山麓・奥飛騨温泉郷）は、槍ヶ岳・穂高連峰、乗鞍岳といった3,000m級の山岳や湧泉量国内第3位の温泉など、豊かな自然環境に恵まれており、国内最高所の自動車道路である乗鞍スカイラインや新穂高ロープウェイなどの観光施設も立地する本県を代表する山岳観光地である。

このうち、特に乗鞍岳において、本県は、乗鞍スカイラインのマイカー規制や乗鞍環境保全税（全国初の環境保全を目的とした目的税）を活用した環境保全活動など、先進的な環境保全施策を展開し、地域と連携しながら環境保全に配慮した観光地の形成を図ってきたところであるが、同公園の利用者数（本県内）は、平成22年の約128万人から平成27年の約96万人へと大きく減少し、その山麓にある奥飛騨温泉郷においても平成27年は約56万人と平成22年度に比べて約15%落ち込んでおり、同公園及び周辺地域の地域活力の低下が懸念される状況となっている。

こうした状況を受けて、本県は、有識者や地元関係者との意見交換を重ね、平成29年7月に、同公園及び周辺地域の「自然」「温泉」「食・文化」といった地域資源を磨き、発信することを通じて誘客を図るとともに、訪れた観光客が長期滞在できる地域づくりを進めることを目的とした「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想」を策定した。

この構想においては、同公園の総合利用拠点施設の整備をはじめとして、公園の担い手となるガイド人材の育成、公園の魅力を伝えるためのガイドプログラムの整備、豊かな自然環境を活かした環境学習の推進、訪日外国人をはじめとした多様な観光客の受入態勢の整備や滞在拠点としての奥飛騨温泉郷の活性化等に取り組むこととされた。

また、高山市では、上記エリアにおける持続可能な地域づくりの実現を目指し、国内でも有数の地形地質資産や景観等を活用したジオパークの取組みを進めており、平成28年12月に、民間主導の組織である「飛騨山脈ジオパーク推進協議

会」を設立し、地元商工観光関係や町内会などの団体と官民連携での取組みを進めている。

岐阜県及び高山市は、それぞれが進めている取組みの連携を図りながら、相互の効果を高めるため、平成30年度当初に、関係行政機関、地元関係団体等を構成員として設置する予定の地域協議会を通じて、地域一丸となって訪問客が長期的に滞在できる地域づくりに向けた取組みを進めることにより、環境と観光の調和が図られた、持続可能な山岳観光地の創出を目指す。また、将来的には、民間主導により多様な自然環境を活かしたツアーが提供されるなど、地域の活力を活かした自立的な観光地が形成されることを目指す。

【数値目標】

| | 事業開始前 (現時点) | 2018年度 増加分 1年目 | 2019年度 増加分 2年目 | 2020年度 増加分 3年目 | KPI 増加分の 累計 |
|----------------------------------|----------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------|
| 中部山岳国立公園及びその周辺 地域の利用人数（万人） | 147.4 | 1.62 | 1.62 | 1.62 | 4.86 |
| 観光消費の経済波及効果（高山 市）（億円） | 1,994 | 74 | 74 | 74 | 222 |
| 中部山岳国立公園における自然 体験プログラム受講者数（人） | 7,976 | 0 | 1,000 | 2,000 | 3,000 |

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2の③及び5-3のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ 地方創生推進交付金（内閣府）：【A3007】

① 事業主体

2に同じ。

② 事業の名称

中部山岳国立公園活性化事業

③ 事業の内容

上記の課題の解決を図るために、地域資源を最大限に活用しながら、観光客の長期滞在が可能な地域の創出を図り、中長期的に、自然環境を守り

ながら、多様な自然の魅力を活用した持続的な観光地を創出することを目指して、次のとおり活性化に向けた事業を展開する。

【ガイド人材の育成・ガイドプログラムの整備】

- ・現在、この地域の魅力を観光客に伝えるガイド人材が不足しているほか、魅力を体験するガイドプログラムが体系的に整備されていない状況にある。こうした課題を解消するため、新たに整備するビジターセンターを拠点として、ガイド人材（専業・兼業）の養成を図るとともに、公園及び周辺地域の自然の魅力を体験することができるガイドプログラムの整備等を進め、地域の多様な資源の活用を促進する。なお、整備したプログラムの内容の充実を図るため、可能な限り前倒しで試行提供を進める。

30年度：ガイド人材の育成計画及びガイドプログラムの年間計画策定、試行等／31年度：ガイドプログラム（ツアー）の試行提供、ガイド育成等／32年度：ガイド育成、ガイドプログラム提供等

【飛騨山脈ジオパーク構想の推進】

- ・中部山岳国立公園及び周辺地域に存在する国内有数の地形地質遺産を保全しながら、環境教育や観光等での多面的な活用を図るジオパーク構想を、行政と地元関係団体が連携して推進し、官民連携による地域活性化を図る。

30年度：飛騨山脈ジオパーク構想の策定、ガイド養成講座の開催、ジオツアーの構築等／31年度：飛騨山脈ジオパーク構想の策定、ガイド養成講座の開催、ジオツアーの開催等／32年度：日本ジオパーク認定申請、飛騨山脈ジオパーク推進協議会の自立化検討、ジオパーク看板の整備等

【アプリケーション開発】

- ・天候不良時や冬季には、中部山岳国立公園の大きな魅力である山岳景観や貴重な自然を楽しむことができず、温泉以外の楽しみ方の開発が大きな課題となっている。このため、岐阜県情報科学芸術大学院大学（IAMAS）と連携し、AR（拡張現実）等を活用し、天候不良時にも公園の魅力を体感できるアプリケーション等の開発を進め、乗鞍岳畳平において提供する。

30年度：山頂魅力紹介アプリ開発等／31年度～：アプリケーションの提供、ブラッシュアップ等

【環境教育の推進】

- ・バス等によって貴重な自然環境が存在する高山帯へ容易にアクセスできる環境にありながら、環境教育の場としての活用が進んでいない現状を踏まえ、中部山岳国立公園を題材とする環境教育プログラムや副教材を作成し、小中学校の環境教育におけるフィールド学習の場として、中部山岳国立公園の利用を促進する。なお、同公園は、県内最北端に位置し、県内の大半の地域から現地への移動に係る経費が高額となるが、県民の愛郷心を育てる観点からも積極的に活用すべきフィールドであると考えており、導入当初に限って、フィールド学習に係る経費に対する助成等を行う。

30年度：学習教材作成等／31年度～：試行実施、県内学校へPR等（31年度以降、本県の「ふるさと環境保全基金」を活用して実施）

【ONSEN・ガストロノミーの推進】

- ・食や文化を楽しみながら歩いてめぐると新たな旅行形態である「ガストロノミーツーリズム」について、本県と交流のあるフランス・アルザス観光機構と我が国のONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構が、平成29年9月に本県等の立会いの下に、県内とアルザスで開催するガストロノミーツーリズムの相互PRを目的とした連携協定を締結した。こうした協定等を活用しながら、公園の利用客の滞在拠点である奥飛騨温泉郷における温泉以外の楽しみ方の開発を進めるため、ONSEN・ガストロノミーツーリズムを奥飛騨温泉郷において展開する。また、ガストロノミーツーリズムの定着と普及啓発を図るため、ガストロノミーツーリズムに関するシンポジウムを開催する。

30年度：岐阜県内第一号開催支援等／31年度～：県内各地へ普及（奥飛騨温泉郷におけるガストロノミーウォーキングの開催を含む。）

【公園の魅力発信と周遊滞在の促進】

- ・地元観光団体や事業者との連携を図りながら、本事業を進める過程で、魅力の磨き上げの取組みと並行して、リアルタイムな情報発信力の強化や広範なエリアに点在する資源を繋ぐためのアクセス手段の多様化を図る必要があることが明らかとなった。
- ・これを受けて、公園及び周辺地域のリアルタイムな魅力情報の発信力を強化するため、地元観光団体や民間企業と連携して、誘客イベントや魅力発信を行うとともに、メディア媒体を活用した旬の情報発信を行う。また、広範なエリアを繋ぐ多様な周遊手段の造成と利用促進を

図り魅力に対する認知度の向上や同エリアの周遊滞在の促進を図る。
31年度～：誘客イベント開催、地元・民間企業等との連携による魅力
発信、旬の情報発信、周遊手段の造成・利用促進 等

【総合的な利用拠点の整備】

- ・ 本地域のビジターセンターである「飛騨・北アルプス自然文化センター」は、平成29年度より休止している。そのため現在は、環境教育、自然体験情報、ガイド人材の育成等の情報を集約して利用者に発信したり、公園内におけるガイドや環境教育の活動の際の拠点となる利用拠点が存在しない。
- ・ こうした状況に対応するとともに、広範なエリアの拠点施設として十分機能するための新たなビジターセンターを整備する。新たなビジターセンターはジオパークやエコツーリズムの拠点とし、地域関係者が連携した持続可能な地域振興の拠点化を図る。

R1年度：ビジターセンターの現地調査業務／R2年度～：基本構想、基本計画、設計、工事 等

【大都市圏等からの誘客促進】

- ・ 乗鞍や上高地、奥飛騨温泉郷といった中部山岳エリアと飛騨高山、白川郷などの周辺観光地を組み合わせた旅行商品を造成、販売するとともに、メディア等とタイアップしたプロモーション等を展開する。また、多雪地帯のため、毎年5月15日に開通している乗鞍岳のアクセス道路「乗鞍スカイライン」の一部区間の早期開通（5月1日）とこれに伴うイベント開催等を通じて、県内外からの訪問者に対し乗鞍岳の新たな魅力の発信を進める。

30～32年度：観光プロモーションの展開等

④ 事業が先導的であると認められる理由

【自立性】

自然公園施設の整備や人材育成・ガイドプログラム整備等に係る財源は、当初の導入時期に必要な予算であり、整備後は、段階的に予算の削減を図る。一方で、観光客が増加しても、自然公園施設の維持管理に直結しないため、継続的な県費の支出は必要である。

【官民協働】

行政は、公園の総合利用拠点施設（ビジターセンター）や自然公園施設等の基盤整備やガイド人材育成、ガイドプログラム整備などの担い手育成を実施し、地域の事業者や団体は、当該基盤を活用して、誘客活動や自然を活用した観光プログラム・サービスの提供を行う。両者は、定期的に情報共有の場を設け、相互に連携して一体となった活性化事業を展開する。

【地域間連携】

国立公園の周辺市村との連携はもとより、国立公園満喫プロジェクトにおいて、モデル公園に準ずる取組みを行う公園に選定されたことを踏まえ、長野県・松本市との連携を強化する。

【政策間連携】

環境政策（保護）と観光政策（利活用）の連携により、自然と共生する山岳観光地を形成する。

- ⑤ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））
4-2の【数値目標】に同じ。

⑥ 評価の方法、時期及び体制

<岐阜県>

【検証方法】

県民の代表者で構成する「ぎふ創生県民会議」で事業の効果検証を行う。
県議会において報告を行い、効果検証する。

【外部組織の参画者】

県民の代表者

産：（一社）岐阜県観光連盟会長、（一社）岐阜県経営者協会会長、岐阜県商工会議所連合会会長、岐阜県商工会連合会会長、岐阜県商店街振興組合連合会理事長、岐阜県中小企業団体中央会会長、岐阜県農業協同組合中央会会長、岐阜県木材協同組合連合会会長、（公財）岐阜県産業経済振興センター名誉会長

官：岐阜県市長会会長、岐阜県町村会会長

学：岐阜大学副学長

金：大垣共立銀行取締役頭取、十六銀行取締役頭取
労：日本労働組合総連合会岐阜県連合会会長
言：岐阜新聞社代表取締役社長、中日新聞社岐阜支社支社長
福：（一財）岐阜県身体障害者福祉協会会長

【検証結果の公表の方法】

検証後速やかに岐阜県HPで公表する。

<高山市>

【検証方法】

市内の有識者や各種団体の代表者、推薦者等で構成する「高山市環境審議会」で事業の効果検証を行う。議会において報告を行い、効果検証する。

【外部組織の参画者】

有識者 4名、各種団体の代表者または代表からの推薦者 11名

産：高山商工会議所

官：岐阜県飛騨県事務所

学：高山生活学校

地域：高山市民憲章推進協議会、荘川町まちづくり協議会

民間：中部電力(株)高山営業所、濃飛乗合自動車(株)

環境：ひだ自然エネルギー協議会、高山市快適環境づくり市民会議

その他：高山市農業委員会、高山市森づくり委員会

【検証結果の公表の方法】

検証後速やかに高山市HPで公表する。

⑦ 交付対象事業に要する経費

- ・ 法第5条第4項第1号イに関する事業【A3007】

総事業費 121,289千円

⑧ 事業実施期間

地域再生計画認定の日から2021年3月31日まで

⑨ その他必要な事項

特になし。

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし。

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 自然環境整備交付金事業（環境省補助事業）

ア 事業概要

自然公園施設の老朽化に伴う施設整備（老朽化したトイレの建替え、公園内の標識の多言語改修・新設、歩道改修に係る実施設計）

イ 事業実施主体

岐阜県

ウ 事業実施期間

平成30年度～平成32年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から2021年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

5-2の⑥の【検証方法】及び【外部組織の参画者】に同じ。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

4-2に掲げる目標について、7-1に掲げる評価の手法により行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

5-2の⑥の【検証結果の公表の方法】に同じ。

岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想の概要

1 地域の特徴 ~ 飛騨山脈に育まれた大自然・温泉・食・文化 ~

【国内・世界に誇る「強み」】

- ・乗鞍スカイラインを利用して、誰でも交通機関で行ける国内最高所（標高2,702m）の「乗鞍畳平」を訪れ、貴重で雄大な大自然を満喫することができる。
- ・山麓には、露天風呂数全国第1位の「奥飛騨温泉郷」が広がり、大自然が広がる非日常的な空間の中で、癒し・やすらぎが得られる。

白山山頂と
同じ標高

(1) 国立公園の大自然

《豊かな自然、手軽な高山帯へのアクセス環境》

- ・変化に富んだ山岳景観（急峻な槍・穂高連峰と広大な乗鞍岳）
- ・高山帯の貴重な動植物（ライチョウや高山植物）
- ・山麓に広がる豊かな森や水（五色ヶ原の森や平湯大滝）
- ・高山帯への容易なアクセス（乗鞍スカイラインや新穂高ロープウェイ）

《多様な利用が可能》

- ・登山、トレッキング（初級者でも3千m級まで登山が可能）
- ・自然観察（ライチョウや高山植物、星空の観察）
- ・学術研究（生態系・地球温暖化・宇宙線・火山・砂防等）

《先進的な自然環境保全》

- ・日本初の環境保全に特化した目的税の創設（乗鞍岳）
- ・日本初のガイド付き入山を義務化した五色ヶ原の森



乗鞍岳とスカイライン



平湯温泉とアカンダナ山
(大自然の中の温泉郷)

(2) 奥飛騨の温泉

- ・露天風呂数国内第1位、湧泉量国内第3位の豊かな温泉地・奥飛騨温泉郷
- ・多彩な山岳景観（笠ヶ岳、焼岳、槍・穂高連峰など）や秘境の風情を楽しむことができる

この地域の「日本一・日本初」

- ・乗鞍岳
交通機関で行ける日本一高い場所
- ・奥飛騨温泉郷
日本一の露天風呂数
- ・新穂高ロープウェイ
日本唯一の2階建てロープウェイ
- ・先進的な環境保護
日本初の環境保全に特化した目的税（乗鞍岳）
日本初のガイド付き入山を義務化した五色ヶ原の森



ライチョウ(夏)

(3) 飛騨地方の食や文化

- ・山々と温泉に恵まれた食文化（飛騨牛、朴葉味噌、飛騨の山椒、高冷地野菜など）
- ・山麓で育まれた文化と伝承（鶏芸や獅子舞などの祭礼行事、数多く残る円空仏）
- ・山岳にまつわる伝承と歴史



朴葉味噌と飛騨牛



奥飛騨温泉郷

2 利用の現状

- ・中部山岳国立公園（岐阜県側）の訪問者数が、平成23年以降減少。
- ・「高山市街地」、「白川郷合掌集落」や「飛騨市（神岡町）で行われているレールマウンテンバイク」は、観光客を増やしている。

<平成27年の入込客の状況>

レールマウンテンバイク
(飛騨市神岡町)
約4万人
(H25比 +60%増)

奥飛騨温泉郷(全体)
約56万人(H22比 -15%)

白川郷合掌集落
約161万人
(H22比 +8%増)

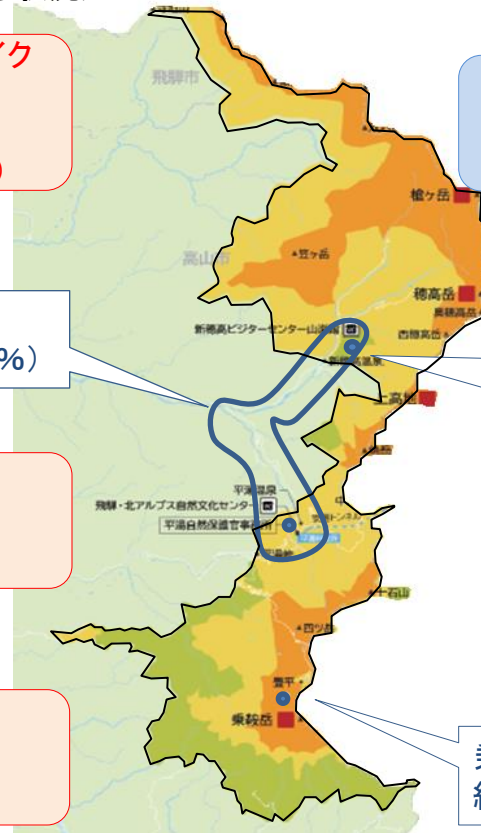
高山市街地
約346万人
(H22比 +41%増)

中部山岳国立公園
約96万人
(H22比 -25%減)

新穂高ロープウェイ
約31万人
(H22比 -21%)

(参考)上高地
約124万人
(H22比 -13%)

乗鞍岳
約12万人(H22比 -40%)



出典：岐阜県観光統計、長野県観光統計

3 活性化に向けた課題

- (1) 地域の強み（資源）に対する認識が十分でなく、強み（自然と温泉、自然と文化など）同士の連携や情報発信が不足
- (2) 国立公園内の玄関口となる総合利用拠点が不足
- (3) 雨（曇り）の日や冬季にも楽しむことができる「飛騨ならではの楽しみ方」づくりが必要
- (4) 高齢者・障がいのある方、訪日外国人など、誰もが訪れ、楽しむための受入態勢が不十分
- (5) 国立公園内の既存施設（トイレ・看板等）が老朽化
- (6) 自然と地域を守り、伝えていくための担い手の育成が必要

4 コンセプト

「誰でも体験できる3,000m級の高山帯、飛騨人^{ひだびと}のもてなしと露天風呂めぐり」

この地域の魅力を発掘し、磨き上げるとともに、この地域の良さを知り、多くの方々にこの地域を訪れていただくために、次の取組みを進めていきます。

5 取組方針

【方針1】豊かな地域の資源を「知る」

- 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成

＜取組例＞

- 地域の人々が乗鞍・奥飛騨の魅力を知り、伝え、誇りを持つ機会の創出
- 地域の人々が訪問者に魅力を語れる場づくり

笠ヶ岳とロープウェー

奥飛騨温泉郷

平湯大滝結氷祭



- 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ

＜取組例＞

- ジオパークの取組推進と自然環境教育拠点の整備
- 学習旅行等の誘致・受入態勢づくり

自然環境学習

かまくらづくり体験

高山植物(コマクサ)



【方針2】強みを活かし魅力・活力を「創る」

- 「乗鞍・奥飛騨ならではの魅力」の発掘・磨き上げ・発信

＜取組例＞

- 自然、温泉、食を活かした地域の魅力の向上
- 「乗鞍・奥飛騨の楽しみ方」の仕組み作り・発信
- 国立公園の情報発信拠点の整備
- 上質な滞在空間の提供
- 安全安心な登山環境づくり

ライチョウ

五色ヶ原の森

乗鞍の雲海



- 持続的な活力の創出

＜取組例＞

- ガイドが活躍できる体制づくり
- 利用者受入態勢の整備
(多言語表記、Wi-Fi、バリアフリー、ツアーデスク等)



ツアーデスク



【方針3】乗鞍・奥飛騨らしさを守り、後世に「伝える」

- 自然の保護と利用の両立

＜取組例＞

- 先進的な環境保全対策の継続・進化
- 人数を限定したガイド付ツアーによる自然体験
- 利用マナーの啓発や情報提供のための拠点整備
- 景観や生態系に配慮した自然公園施設づくり

高山植物のお花畑

五色ヶ原の森(ガイド付ツアー)



- 乗鞍・奥飛騨の魅力を守り伝える人づくり

＜取組例＞

- 質の高いガイド(自然・地質・登山等)の育成
- 大学生や高校生等に対するガイド体験学習会
- 小中学生の環境意識向上、学習旅行の場の創出(再掲)

自然保護のガイド

地域の植生のガイド



6 関係団体と連携した取組の推進

国、県、高山市、地元観光協会、民間企業、地元各種団体等と連携、飛騨市、白川村、隣接する長野県松本市(上高地、乗鞍高原)との連携、中部山岳国立公園関係県である新潟県、富山県、長野県、その他国立公園の活性化を志す各種団体と連携

基本計画の策定

県・市・地域の関係団体が実行
する内容を持ちより策定

計画の実行

団体間の連携を図り、
各団体が主体的に取り組む

進捗管理と見直し

毎年、取り組みを評価検証し、
改善を進める

1 計画の目的

本計画は、本年7月に策定した「岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想」を具体化し、関係機関・団体等が一体となって、中部山岳国立公園（周辺地域を含む）の活性化を図ることを目的として、策定するものである。

2 計画の概要

(注) 本計画策定時点で、新たな元号が制定されていないため、皇位継承の予定日以降の年表記も「平成」を用い、西暦と併記。

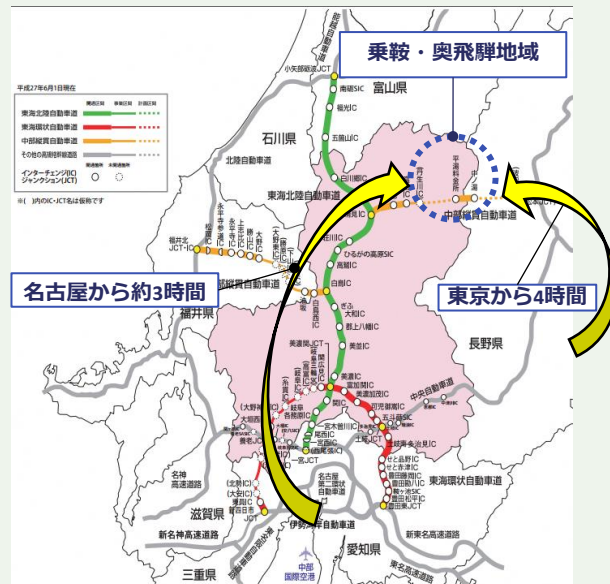
(1) 対象地域

対象地域は、中部山岳国立公園、乗鞍山麓及び奥飛騨温泉郷とする。



(2) 計画の期間

計画は平成30（2018）年度から平成34（2022）年度までの5年間とする（注）。



(3) 計画の位置付け

- 本計画は、岐阜県中部山岳国立公園活性化基本構想を具体化するものである。
- 中部山岳国立公園南部地域管理計画書（環境省）、岐阜県環境基本計画、岐阜県成長・雇用戦略2017、清流の国ぎふ創生総合戦略（岐阜県）、高山市まち・ひと・しごと創生総合戦略、飛騨高山ブランド戦略（高山市）等の国・県・市の関連計画との整合性を図るものとする。

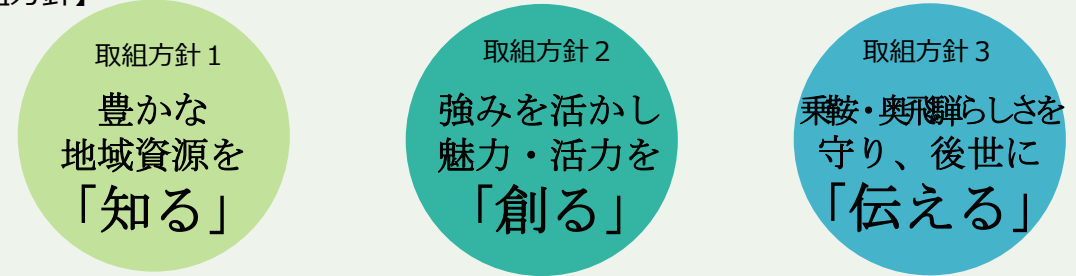
3 目指すべき姿

(1) 基本構想のコンセプト・取組方針

【コンセプト】

「誰でも体験できる3,000m級の高山帯、
飛騨人のもてなしと露天風呂めぐり」

【取組方針】



(2) 目指すべき姿

関係者が一体となって、地域の魅力を磨き、発信する取組みを継続的に進めるため、中長期的に目指すべき姿を、次のとおり設定。

地域の人々が誇りをもって暮らし、語る事ができる、持続可能な地域となること

地域の魅力に惹かれた人々が国内外から集い、滞在・交流する地域となること

地域の人々とこの地域を愛する人々によって、かけがえない大自然が持続的に維持され、我が国の豊かな自然環境を代表する場所として認知される地域となること

(3) 取組みの指標

「入込客数（国内・国外）」 「旅行消費額」 「滞在者の満足度」 「リピーター率」 「環境教育等の利用者数（環境教育、ガイドツアー等利用者数）」 「自然系ガイド数」 「参加型環境保全活動等への参加者数」 「環境保全状況（乗鞍岳）」

4 計画の推進

(1) 計画の実行、進捗状況の管理

- 国、県、高山市、関係団体は、相互に連携を図りながら、この計画の取組みを着実に実行する。
- 取組状況は、毎年、行政機関と関係団体等を構成員として設置する協議会において、評価と検証を行い、必要な見直しを行う。

(2) 広域連携

- 中部山岳国立公園南部地域利用推進協議会の場等を通じた長野県・関係団体等との連携
- 国や他の中部山岳国立公園構成県（富山県・新潟県）等との協調による発信力強化、ブランドイメージ向上

5 具体的な施策

取組みの実施に当たっては、行政機関、民間団体、地域住民が連携して進める必要があることから、意見交換等を通じて丁寧に意思疎通を図りながら推進する。

取組方針 1

豊かな地域資源を「知る」

1-1 豊かな地域の魅力を知り、誇りを醸成

○豊かな自然を知り、誇りを醸成する経験機会の創出

- ・ 魅力を体感し、誇りを育むガイドツアーの開催
- ・ 地域の住民と訪問者が魅力を語り合う機会の創出 等
【県・市・団体：H30～】



乗鞍山麓 五色ヶ原の森

○飛騨山脈ジオパーク構想の取組推進

- ・ ジオパーク構想の取組推進
- ・ 学習プログラムの構築
- ・ 学習会等の開催
- ・ ジオパークガイドの育成
【市・団体：H30～】

1-2 飛騨山脈の「大地と自然の恵み」を学ぶ

○大学や研究機関との連携交流

- ・ 宇宙線や天体の観測研究（東大・京大）、地震、砂防（京大）など、公園内や周辺の観測・研究施設との連携交流の促進
- ・ ビジターセンター等における研究成果の展示 等
【県・市・団体：H30～】



乗鞍スカイライン

○環境教育の推進

- ・ 乗鞍岳（畳平～剣ヶ峰、五色ヶ原）をフィールドとする環境教育プログラム（副教材）を作成
- ・ 現地学習の促進のための助成制度の構築、教育旅行の誘致
- ・ 温泉等の多様な資源を活かした総合的な環境教育プログラム構築 等
【県・市・団体：H30～】



ぎふ清流未来会議開催の様子

取組方針 2

強みを活かし魅力・活力を「創る」

2-1 乗鞍・奥飛騨の魅力の発掘・磨き上げ・発信

○魅力ある体験プログラムの造成

- ・ 乗鞍山頂域の大自然、ライチョウ、標高2000mの星空などの特徴的な資源を生かしたツアーの造成
【県・市・団体：H30～】



ライチョウ（夏）

○ONSEN・ガストロノミーツーリズムの推進 【県・市・団体：H30～】

○「誰でも容易に到達できる日本最高所」の進化

- ・ 外国人、高齢者、障がい者、子育て世代等に配慮した施設、案内体制の整備 【国・県・市：H30～】

○最先端の情報技術を利用したアプリケーションの開発研究（IAMASとの共同開発） 【県：H30～H33】

○温泉地の賑わいづくり

- ・ 誘客イベントの開催
- ・ 温泉を活かした滞在プログラムづくり等 【団体：H30～】

○安全・安心な登山環境づくり

- ・ 登山者への情報提供、新穂高地区駐車場対策、火山防災対策
【県・市・団体：H30～】

○景観の改善の検討【市】

○二次交通の充実【市・事業者：H30～】



奥飛騨温泉郷

2-2 持続的な活力の創出

○高山市街地と国立公園のシームレス化

- ・ 観光案内拠点間における情報の相互提供
- ・ ロングトレイル、サイクリングルートの開発の検討 等
【県・市・団体：H31～】

○人材の交流、活躍の場づくり【県・市・団体：H30～】

- ・ 大学のフィールド研究等の研究教育活動の受入
- ・ ビジターセンターの安定した運営に向けた体制構築 等

取組方針 3

乗鞍・奥飛騨らしさを守り、後世に「伝える」

3-1 自然の保護と利用の両立

○国立公園利用拠点の整備

- ・ 総合窓口となるビジターセンターの整備
【県：H30～】



乗鞍岳

○乗鞍岳の環境保全対策の進化

- ・ これまでの環境保全施策の効果（植生回復、ライチョウの安定的生息等）のPRとブランド化
- ・ 自動車利用のあり方の継続的な検討
【県・市・団体：H30～】



乗鞍スカイライン EVレンタカー実証実験事業（乗鞍自動車利用適正化協議会）

○快適な自然公園施設の整備

- ・ トイレの洋式化
- ・ 案内標識多言語化、デザイン統一化
【国・県・市：H30～】

3-2 乗鞍・奥飛騨の魅力を守り伝える人づくり

○質の高いガイド人材の育成

- ・ レベルに応じた自然系ガイドの育成、ガイドプログラムの作成
- ・ 外国人ガイドの活躍の場の確保と多言語対応が可能な日本人ガイドの育成 等
【県・市・団体：H30～】



乗鞍美化の会による外来植物除去作業

○参加型の環境保全・登山道整備の推進

- ・ 参加型の外来種駆除活動や登山道補修活動の取組み
（例）平湯観光協会の登山道補修 乗鞍美化の会の外来種除去
【市・団体：H30～】

イメージ戦略の構築と情報発信・プロモーション

○誰が聞いてもイメージできる愛称（日本語・英語）やロゴマーク等、統一的な地域イメージの形成に向けた取組み

○訪問客の属性や嗜好等のニーズの継続的な把握

○ニーズに即して、的確な情報発信を行うとともに、積極的なプロモーションを推進。（例）SNS活用、登山・アウトドア関係企業等と連携したキャンペーン、海外旅行会社を招聘したモニターツアーなど